

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

# MELDIA

障がい者と共に

## 育む

障がい者と共に

## 描く

大矢真那による取材

障がい者を応援!

クオールアシスト株式会社 × 大矢真那

布施博による取材 布施博が訊く

コンフィデンス早稲田 × 布施博

福祉事業所訪問

hikari no café 蜂巢小珈琲店

障がい者とアート

マ・メゾン光星

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size / はじまり」

月刊メルディア  
VOL.15

TAKE FREE

MELDIA

2019  
MAR VOL.15

月刊MELDIA VOL.15 2019年1月25日発行(毎月1回25日発行) 第15号 通巻15号  
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA  
GROUP

# 同じ家は、つukらない。



## メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

25th  
ANNIVERSARY

まだ25年、  
これからのメルディア



大矢 まずは、クオールアシストさんが立ち上がった経緯などからお聞かせ下さい。

青木 当時の親会社である「クオール株式会社」で障がい者雇用はしていましたが、それが中々うまくいってませんでした。そこで私が障がい者雇用の担当を任された時に、いろいろな所へ見学に行っただけですが、これは本業である薬局系の会社が関わるものとしては違うかな？ っと感じたわけです。そこでクオール時代に障がい者雇用枠で採用した社員が1人だけ在籍していたんですが、社員がやっていた仕事を全体的に広げていったら良いんじゃないか？ と思いました。そこから、重度の身体障がいのある人を「在宅で雇用する」という方向で話が進んでいったんです。

大矢 そこで、特例子会社のクオールアシストを設立したというわけですか？

青木 そうですね。「特別ルール」を作った方が良いでしょう。結果的に、保険調剤薬局業界として初めての特例子会社となりました。会社の設立が09年の2月で、特例子会社の認可を受けたのが3月ですから、たぶん日本記録級の速さ

大矢真那が取材



### 調剤薬局という業態から「何ができるか」を模索

## 「ICT(情報伝達技術)」を駆使して多くの重度の身体障がい者を在宅で雇用



クオールアシスト株式会社  
東京都中央区



保険調剤薬局の全国チェーン、クオールホールディングス株式会社の特例子会社であるクオールアシスト株式会社では、重度の身体障がいのあるスタッフを在宅で雇用し、データ入力、イラストデザイン、ウェブ制作などのクリエイティブ系の事業を行っている。

一見すると、重度の身体障がい者を在宅で雇用するというのは難しい取り組みのように思える。どうしてこういう業態にしたのか、そのユニークな取り組みを大矢真那が聞いた。



大矢 現在、何名の方が在宅スタッフとして働いていらっしゃいますか？

青木 最初は7名からスタートして、現在は44名が在籍しています。採用地域は12都道府県に渡っていますね。

大矢 なぜ「在宅」という雇用形態を採用したのでしょうか？

青木 多くの調剤薬局はスペースが厳しいんです。その狭い中で車いすで仕事をするというイメージは沸きにくい。そこが障がい者雇用で最初に取り組んだ時の失敗要因の一つだったんです。では、店舗の外で雇おうという発想になりました。既にその方式を取り入れている他業種の会社があったのが一番大きな要因です。

大矢 でも、そうなるってイチからルールを作らねばならないなど、大変だったのでは？

青木 新たに「在宅勤務規定」を作る必要がありました。家の外に出るのが大変な人たちもいますし、リハビリ、入浴、排泄介助などの生活支援だけでなく、色々な問題や課題を抱えている人もいます。それを考えると、「9時から18時」という感じの一般の就業形態では難しいことが



クオールアシスト株式会社  
代表取締役社長  
障がい者職業生活相談員

青木 英さん  
Ei Aoki



採用は重度障がい絞る

労働市場は売り手市場に

タレント/女優

大矢 真那  
Masana Oya



クオールアシスト株式会社  
東京都中央区日本橋 2-14-1  
フロントプレイス日本橋9階  
TEL / 03-3510-0485  
<http://www.qol-assist.co.jp/>



レビ会議のような映像での会議を行わないのは、通信速度の問題と、ご家族のプライバシー保護の観点からです。それから、映像だとコミュニケーションの質も落ちる気がします。お互いの顔が見えると「繋がっている」ような錯覚を起してしまうというか。音声だけだと、きちんと言葉にしないと伝わらないですね。実際、これまでに音声だけだからトラブルになったということもありません。大矢 44名もの人たちがいますから、その人たちの症状や障がいというのは、やはりそれぞれバラバラなんですよね？  
青木 交通事故に遭遇して障がいを持った人もいれば、脳卒中系から障がい者となった人、難病特定疾患、肢体不全の人など実に多様ですね。



多いんです。だから「フレックス制」にして、就業時間を「8時から22時までの間で好きな時間に設定してもらう」というルールも作りました。  
大矢 在宅雇用の社員と通常勤務の社員とで違った視点で考えなければならぬことや、決めなければならぬことも多いと思います。特に留意していることは何ですか？  
青木 一番は健康に関してです。例えば、「就労中に心不全を起してしまう」といった人もいます。ですから、本人の体調がどうなのか？ ということをつぶさに確認しつつ、必要に応じてご家族に助言をお願いしたり、支援をしてもらっている所に確認を求めたりする事もあります。  
大矢 仕事の打ち合わせやミーティングなどはどのようにやっているんですか？  
青木 音声だけの「ワークウェルコミュニケーター®(以下、WWC)」を使用しています。テ

※「ワークウェルコミュニケーター®」は株式会社沖ワークウェルの登録商標です。



一般財団法人メルディア

# MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

## 02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は、首都圏および中京エリアの大型商業施設や大型店舗、特別支援学校、全国の障がい者支援施設等にて無料配布しています。



## 04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2019年1月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対するの支援を行っています。



## ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰も人生は一度しかないものです。

### ■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア  
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)  
設立者 小池信三  
設立日 2017年5月23日

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F  
電話 03-5381-3213  
URL <https://meldia.org/>  
MAIL [org@gf-meldia.com](mailto:org@gf-meldia.com)



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



## 01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



## 03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



## 05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。  
※Jリーグのシーズンオフ期間中はチケットプレゼントはございません。



## 障がい者を応援 クオールアシスト株式会社



中村 薬局で働く薬剤師や事務の人たちの就業管理というか、その人たちの就業時間を専門のシステムに入力する仕事ですね。それと、私はウェブチームの所属なので、当社(クオールアシスト)の仕事だけでなく、関連会社のホームページ制作

話に聞いてくれた中村さんは、27歳の時にブールの飛び込みで失敗して首の骨を折ってしまい、脊椎を損傷、車いす生活になってしまったといいます。中村さんはこういった仕事を担当されているんですか？

## 前向きな在宅スタッフ その姿勢に勇気を貰う



ワークウェルコミュニケーター®  
©株式会社沖ワークウェル

ITの発達で進む在宅雇用ですが、こういうところでも活用されて、障がい者の雇用にも役立っていることが分かりました。(大矢真那)

大矢 中村さんとはどういう仕事を担当されているんですか？  
中村 薬局で働く薬剤師や事務の人たちの就業管理というか、その人たちの就業時間を専門のシステムに入力する仕事ですね。それと、私はウェブチームの所属なので、当社(クオールアシスト)の仕事だけでなく、関連会社のホームページ制作

話に聞いてくれた中村さんは、27歳の時にブールの飛び込みで失敗して首の骨を折ってしまい、脊椎を損傷、車いす生活になってしまったといいます。中村さんはこういった仕事を担当されているんですか？

大矢 中村さんとはどういう仕事を担当されているんですか？  
中村 やはり、障がいがあるということ通勤するのは難しいんですよ。通勤せずに在宅で仕事が遂行できるということで、やりがいもありますし、毎日が充実しています。

大矢 中村さんは会社設立当初からのメンバーだと聞きましたが、  
青木 でも実際には、恵太さんはウチの設立前からだよな？  
中村 はい。11月でちょうど10年目になります。



取材の中であったような、青木さんと中村さんとの掛け合いを客観的に見ていると、それは職場での会話っぽくない、ごく自然な知り合い同士の会話のように感じました。お二人のざっくばらんな話し方から、両者の結び付きの強さが伺えて親しみが湧きました。また中村さんが、「やりがいのある仕事が出来て毎日が充実している」と言っていたことがとても印象的で、それが一番重要なんだと、感動さえ覚える気持ちの良い取材でもありました。

取材・大矢真那

青木 自称だけれど「最重度の障がい者でサーフィンをやった初めての人」ということになっているんだよね、確か(笑)  
中村 そうですね(笑)。今でこそ重度の障がい者でもサーフィンが出来るようになってはいるんですけど、僕がサーフィンを始めた7年前には誰もまだやってなかったですね。普段は車いすで窮屈に感じているので、海に行くのが解放された感じになるのが気持ちいいんです。  
青木 恵太さんは、元々は自由人だったらいいですよ。でも、「自分が障がい者になったことの責任は自分にある」という自覚の下でここまでやれているっていうのは、とても凄い事なんだと思いますね。



就職後の高定着率を誇る  
障がい者就労支援の草分け的存在

# 障がい者の 将来のためには 「焦らないこと」が 必要と説く

コンフィデンス早稲田 東京都新宿区  
布施博が訊く Hiroshi Fuse's interview.



日本橋に拠点を構える  
一般社団法人「障害者就労  
支援協会」。2009年か  
ら活動をスタートした就  
労移行支援のパイオニア  
的存在だ。同法人では早  
くから基本的な就労能力  
の向上に取り組み、同  
施設利用者は訓練後  
に就職した企業での  
定着率は96%にも上  
るといふ。

「知恵を仕事に  
する」という理念を  
掲げ、「作業内容は  
一人一人の特技や関  
心に沿って相談しな  
がら決める」といふ。就  
労継続支援B型事業所  
「コンフィデンス早稲田」  
を俳優・布施博が訪ね、同  
施設長・佐藤恵子氏に、そ  
の運営理念を訊く。

働くためにも継続のためにも  
その環境を見直し続けること

布施 まず、「せんべい屋さん」という事業内容  
を選んだ理由を聞かせてください。

佐藤 以前に私がせんべい屋を経営していたこと  
があつてせんべい製造と運営のノウハウを持って  
いたからです。それと、せんべい屋の仕事には作業  
所の仕事内容として運営するのに多くの利点があ  
ると思つたからです。

布施 「利点」とは何ですか？

佐藤 せんべいって軽いですよね？ 利用者さん  
の中には重いものを持つことが苦手な人もいます。  
せんべいなら商品を持ち運ぶことを多くの方が遂  
行できるはずと考えました。

布施 なるほど。

佐藤 他にも、せんべいは賞味期限が長くて商品



管理しやすいという利点もあります。せんべい屋と  
いふ商売は「障がいのある人でも働きやすい環境」  
を作れて、障がいと相性の良い事業だと思つていま  
す。

布施 確かに、そうかも知れない。ここではせんべ  
い屋以外の事業もしているんですか？

佐藤 新宿区から請け負っている緑化事業や消火  
器の点検、それ以外にも点字名刺の制作などがあ  
ります。点字名刺は専用の点字タイプライターを  
使って、手作業で一枚ずつ作るのですが、利用者さ  
んたちの仕事はとても早いですよ。しかも、タイプ  
ミスなんかもとても少ないです。

布施 それは素晴らしい。それらの事業内容も利  
用者さんの特性を考えて選んでいますか？

佐藤 特性を考えるのはもちろんですが、事業内  
容に関しては「選ぶ」といふより、みんなで仕事内  
容の企画を立て、私がそれを持って営業に行く、と  
いふことが多いんです。この立地は東京といふ  
好条件ですし、仕事は自分たちで編み出していい  
うといふ考えが強いですね。

布施 そういえば、こちら「障害者就労支援協会」は  
日本橋にも事業所を構えていますよね。

佐藤 あそこは09年にうちが最初に建てた施設  
で、就労移行支援事業を行っています。

布施 日本橋って言ったら「一等地」じゃないですか。  
随分と思ひ切りましたよね。

佐藤 ええ。言葉は適切ではないかもしれませんが、  
が、当時は「障がい者が働く」といふのは考えられな

い」と世間で言われることがあるくらい、障がい者  
雇用のイメージが乏しく、理解が浸透していない  
時代でした。制度などもまだまだ未整備な時代に、  
うちは敢えてビジネスの最前線である「日本橋」に  
施設を構えたんですよ。

布施 それもやはり理由があるんですよ？

佐藤 私の信条が「環境が人を育てる」だからです  
ね。日本橋という場所は街に出れば歩行者の多く  
が第一線で働くビジネススマンたちです。そんな環境  
の中で就労訓練をすれば、利用者さんたちに「自分  
が働くんだ」という気持ち自然と芽生えてくる  
のではないかと考えました。

布施 分かるなあ。確かに「環境が人を左右する」つ  
ていふのはありますよね。

佐藤 そうですよ。うちでは「環境作り」の一環と  
して、「働いたら休む」といふのを徹底しているん  
です。「休む」という訓練すら行っているくらいなん





布施 そういう人は、就職先に定着するのが難しいということになるんじゃないでしょうか。  
 佐藤 うちの事例ですけど、利用者さん自身が自分のことを他の人に説明できるようにした途端に、就職が決まるということが結構あったりするんですよ。  
 布施 それが就職先に定着するためのポイントでもあると？  
 佐藤 そう思います。利用者さん本人たちだけでなく、その家族や身内の人たちにも言え



る事ですが、「就職を絶対に焦らな  
 い」ことも重要です。少し言い方は  
 乱暴ですが、障がい者雇用が義務化  
 された今、「障がいのある人を誰で  
 もいいから採用する」という企業も  
 あるといえます。焦らず、時間を掛け  
 てマッチングをすれば、今よりずっと  
 多くの障がいのある人たちが、より  
 良い形で仕事に定着できるはずで  
 す。

一般社団法人 障害者就労支援協会 Confidence  
 コンフィデンス早稲田 / 理事長・施設長

佐藤 恵子さん

Keiko Sato



コンフィデンス早稲田  
 東京都新宿区西早稲田 2-18-22  
 TEL / 03-6233-9714  
<https://confidence-s.com/>



仕事を継続するには、「そこに好きなことがあるか」と「それを見付けるか」が鍵になるはず。それを忘れるのは否めない。(布施博)

も周囲が「環境作り」に注力することは必要で、しかも何事にも「焦らない」のが重要だ、とも言っている佐藤さん。  
 障がいのある人たち自身の「好きなこと」を仕事にできるよう導いてあげることが、延いては定着率の向上にも繋がり、それが本人と家族の将来へと繋がっていくはずだ、と熱弁を振るう彼女が印象的な取材だった。

取材・布施博



「利用者には休憩することを徹底させている」と語る佐藤さん。「幼い頃は体が弱かった」という彼女の理念の根源は自身の経験の中にあつたのかもしれない。

です。  
 布施 「休む訓練」とは面白いなあ。  
 佐藤 障がいのある人たちの中には、ともすれば、集中することよりも休むことが難しいという場合が往々にしてあります。当人の体調が良い時などは特に、「仕事をやろう」と思えば、ほとんど仕事が出来てしまつてしまうこともあります。でも、当然の事ですが、誰でもあつても休まずに働くとは疲れてしまいます。そうなる、次の日にまた仕事をする、これを嫌になつてしまつていく状況に陥る可能性を認めません。  
 布施 全くその通りですね。  
 佐藤 障がいのあるなしに関係なく、仕事をやる上で重要な事の二つは、「毎日同じレベルの仕事を行なせること」でもあると思います。そのために



も、利用者さんにはしっかりと休んで貰って、これからも仕事を続けていくための英気を養って欲しいと考えます。  
 布施 「しっかりと休む」のは必要な事です。  
 佐藤 それともう一つ重要なのは、基本的に利用者さんたちには「本人がやりたい仕事をやって貰う」というようにしています。  
 布施 これまでの取材では、「利用者さんが遂行できそうな仕事をスタッフが考えて各々に割り振る」という

俳優 布施博

Hiroshi Fuse

形を良く耳にしましたが、ここではそうではないということですか。  
 佐藤 はい、そうです。  
**好きな事を「好き」と言えるそれが定着率向上への第一歩**  
 布施 障がいのある人が、就労訓練を経て就職したのに、そこに定着できずに離職してしまったという場合も少なくはないようですが、そのことについてはどう思われますか？  
 佐藤 就職先での仕事内容が「自分の好きな物ではない・なかった」というのも理由の一つとして挙げられるかも知れません。  
 布施 障がいのある人と就職先企業との「マッチング」が上手くいかなかった、と？  
 佐藤 うちの訓練では「何らかの事柄について利用者さん各々が思った事を自身の口で言う」というのがあります。その訓練を始めたばかりの利用者さんの中には、苦しんで何も答えられないという人もいます。  
 布施 利用者さん自身が自分のやりたいこと自体が分からないことがある、と？  
 佐藤 そうなんです。他にも、体調管理などの「自己管理」においても然りです。障がいのある人たちの周囲には依然として、「自身が思ったことを口にできない」という環境が残っているせいなのかもしれませんけど。





*Fascinate artists is in Nasu.*

# 那須の広大な自然の中で 多くのアート表現者を育む 障がい者の描くアートが 観る者を魅了し続ける理由

栃木県那須郡の広大で清涼な自然の中に建つ「マ・メゾン光星」。そこには、思いやりの心で互いの存在を認め合い、夢の実現に向けて「自分らしく生きがいをもって生活する」利用者たちの姿があった。同施設内では利用者の各種クラブ活動が盛んで、中でもとりわけ活発なのは「よさこい」と「絵画」という。絵画は、障がい者アート展として那須周辺で毎年開催される「つながるひろがるアート展NASU」にも出展されていて、同アート展で彼らの絵画を目にした事がきっかけでファンになる人もいると聞く。目が肥えた絵画鑑賞者をも魅了するアーティストを複数輩出するなど、その活動が特に顕著だ。多くの障がい者アーティストを生んだ同施設で利用者へアートを教える2人、アトリエ担当の佐藤謙太郎さんと北原教室の北原秀章さんにお話を伺った。

## 多彩な才能を秘める利用者 多様なクラブ活動の必要性

大橋 こちらには利用者さんたちが行う多様なクラブ活動があると聞きましたが？

佐藤 ここは設立からの歴史が長いので、クラブ活動の幅も広いのです。また、利用者さんたちの希望に沿って、様々なクラブ活動を展開しているのも種類が豊富な理由かもしれません。

大橋 どのような活動がありますか？

佐藤 現在は、絵画、書道、華道、染め、手織り、太鼓、よさこい（踊り）、陶芸など様々です。

大橋 クラブ活動の種類が多い事で利用者の側が得られるメリットは何だと思いますか？

佐藤 単純に、利用者さんたちが飽きずに活動が続けられるというのがメリットだと思います。また、色々な活動をする事で一人一人が才能を発揮させる機会が増えるのではないのかなと思うんです。例えば、それまで「よさこい」と「太鼓教室」を長くやっていたある利用者さんですが、「つながるひろがるアート展NASU（※1）」に展示されていた絵を見て、「僕も絵を描いてみたい」と言ってきた事もありました。

北原 他の人の創作活動を目にしたのが良い意味で刺激になったのかも知れません。

佐藤 これはまた別の利用者さんですが、この福祉施設に来る前は自宅でクロスワードパズルを解くのだとか、文字を書くのが好きだったそう



ですが、絵を描いた経験は無かったようなんです。でも、ある日突然、「怪人」がモチーフの絵を描いて私の所に持って来た事があったんです。後日、その「怪人」の絵がとても評判になって、那須にある山水閣というホテルのスタッフさんがその絵のファンになってくれた、というエピソードもありました。

大橋 面白いエピソードですね。

北原 一つ何が動機やきっかけになるのか分かりませんが、多くの選択肢がある事で、利用者さんたちの中に眠っている才能が開花する可能性を高めることになるんだろうと思います。

佐藤 色々な活動をする利用者さんたちを見る度に、「多彩な才能を持っている人が多いんだなあ」と改めて感心させられることが多いです。

大橋 そもそも、多くの利用者さんにアートを指導するようになったのはなぜですか？

北原 集団で作業をすることが難しいとされる、ある利用者さんが居たんです。当時の施設長が、「彼はゆっくり絵を描くのも良いんじゃない？」と言ったんですね。既にその頃、2〜3人の利用者さんに絵の指導をしていたので、その人にも参加してもらおうことになったんです。最初は人数が少なかったのですが、徐々に人数が増えて行って、現在では20人くらいの利用者さんに指導するようになりました。

大橋 どんな指導方法を実践していますか？

佐藤 様々な画材や資料を事前に用意するのは

※1/那須地域周辺で毎年開催される障がい者アート展のこと (14号に掲載)

社会福祉法人 慈生会/マ・メゾン光星  
栃木県那須郡那須町豊原乙1189  
TEL / 0287-77-1013  
<http://www.nasu-web.or.jp/~kousei/>





佐藤 創作にやりがいを感じる人が多いように思いますね。さっき言った、「怪人」の絵を描いた利用者さんですが、彼の絵のファンになった人から、「怪人」の絵をプリントしたTシャツをプレゼントされた事があるんです。彼は、そのTシャツを嬉しそうにいつも着ていて、その様子がとても誇らし気でもあるんですよ。

北原 自分から積極的に挨拶ができるようになったり、以前より周囲とのコミュニケーションを取れるようになった人が増えたと感じます。また、「つながるひろがるアート展NASU」での展示が終わった後などは、創作意欲が増した様子も見られて、「アートに触れた効果は高いなあ」と実感させられることも多いですね。

大橋 素晴らしい効果だと思えます。

佐藤 自分の作品を理解してくれる人が徐々に増えていくことが、利用者さんたちの充実感を満たすことになっているのかなと思つくと、指導する側の私たちも大変うれしいです。

大橋 最後に、本誌の読者にメッセージなどがあればお願いします。

北原 障がい者アートがもっと拡がっていくことで、「障がいのある人もそうでない人も皆が一緒に社会で暮らしているんだ」という意識を持ってくれたら良いなと思います。

佐藤 誰にでも素晴らしい能力があるのだという事を周囲が分かってくてください。また、何事にもチャレンジさせてあげてください。



北原教室担当  
画家・陶芸家  
**北原 秀章さん**  
Hideaki Kitahara

タレント・モデル・ライター  
**大橋 はるか**  
Haruka Ohashi

マ・メゾン光星／生活支援員  
アトリエ担当  
**佐藤 謙太郎さん**  
Kentaro Sato

——「マ・メゾン光星」の副施設長・齋藤透さんにもお話を伺いました ——

大橋 こちらの施設「マ・メゾン光星」の土地面積がとても広いのに驚きました。

齋藤 昭和21年に慈生会の創立者であるフロジャック神父が宮内庁にお願いして、昭和天皇から御料地の一部の3百町歩（※2）を恩賜（※3）されたのが最初だといいます。現在もその約3分の1にあたる97ヘクタールが残ります。

大橋 単位が大き過ぎて想像すらできません。

齋藤 東京ドームの約20個分くらいですか。

大橋 すごく広いですね！

齋藤 元々ここは児童施設でした。当時はこの広い土地を活かして酪農やシイタケの原木栽培などをやっていたそうです。現在、メインでやっているのは農作物の栽培です。

大橋 農作業の合間に色々なクラブ活動をされているということなんですか。

齋藤 はい。「よさこい」や創作活動もそうです。が、全ては利用者さんたちの「自己表現手段」の一つとしてやってもらっているという意味が大きいんです。障がいのある人が達成感を得られる機会というのには意外と少ないように思っています。自身で作った農作物を自分で食べる、というのは達成感がありますよね？ 障がいのある人たちが、「これは自分で作ったんだ」と胸を張って言える「何か」を見付けるための手助けをするのも、私たちの目的の一つでもあります。



社会福祉法人 慈生会  
マ・メゾン光星／副施設長  
**齋藤 透さん**  
Tohru Saito

※2 / 1町歩は約0.99ヘクタール換算となるので300町歩はおおよそ297ヘクタール  
※3 / 「恩賜(おんし)」とは天皇から賜る物のこと。または、その賜り物の意

当たり前として、創作に没頭できる「環境作り」が最も重要だと思つています。中には、音がすると気が散つて絵が描けない人もいますので、時には教室を分けたり、創作に没頭しやすい環境を整えるよう心掛けています。

北原 私の場合は、利用者さんたちを出来るだけ褒めるようにしています。例えば、それまで絵に色を塗ることをしなかった人が、初めて色を塗ったとしたら、「あ、それすごく良いね！」と言ってあげると、とても嬉しそうにするんです。他人から褒められることで、ますます絵が良くなるし、創作意欲が湧くんだと思います。

大橋 誰でも他人から褒められるとモチベーションが上がりますもんね。

**自分の世界を自由に描く力 彼らが持つ突き抜けた感性**

佐藤 まず最初は、自身の想像力だけで描いてもらつて、筆が進まない人には改めて資料などを提供するという感じにして、私たち職員はなるべく手や口を出さないようにしています。指導をすればするほど、心の中にあるものを素直に

出すことが難しくなるのではないかなと思っんです。

北原 例えば、私たちは「にわとり」っていうと大抵の人が白いにわとりを想像しますよね。ある利用者さんで、にわとりの絵を描く事が好きな人がいるんですが、その彼が描くのは決まって「青いにわとり」なんです。その彼のように、自分の中にある「世界」を自由に表現する利用者さんがとても多いんです。

大橋 確かにそうかもしれません。

佐藤 美術教育を受けたことがある人ほど、「障がいのある人たちが描く絵の個性に圧倒される」と口に出せることが多いですね。また、そういった人の誰もが異口同音に、「彼らは完成されたものを既に持っている」とも言いますね。

北原 障がいのある人たちが創作したものは「勉強」からは得ることができないと言つても過言ではない、「突き抜けた表現」が多くて、その感性に驚かされるのが度々あります。

大橋 創作活動をする前と後で、利用者さんに変化や効果が見られることはありますか？

大橋 自信を持たせる意味もあるんですね。齋藤 利用者さんたちが「何か」で達成感を得られるようになるには、職員が手助けをする必要があるんですね。ですから、職員を採用する面接時には必ず、「趣味や何かで他人（ひと）より秀でたものはありますか？」と聞いていますよ。

大橋 それはなぜですか？

齋藤 職員が持っているものを利用者さんたちに還元するためです。例えば、絵画やスポーツが得意な職員が居れば、それを利用者さんに教える事が出来ますよね？ 好きだからこそ良く教えることが可能になると思っんです。

大橋 利用者さんと職員とで好きな事を一緒にやってやるのは、良いことですね。







# はじまり

水越けいこ連載

15



シンガーソングライター  
水越けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と公演活動を続けている。

## 遅しくも凛々しい息子の姿 空手と息子との「はじまり」

時が経つのは早いもので、ダウン症を持つ息子・麗良(れいら)は、26歳になりました。幼い頃は腕も脚も細く、骨まで細いようにも見えて、だいぶ華奢な身体でした。実際、病気がちで身体もそれほど強くはありませんでした。当時の私は、息子の体力をどうにか向上させて、「何とかできないものか」といつも考えていました。近所の公園や学校のグラウンドで元気に走り回る他のお子さんたちの様子を見るにつけ、「麗良にはどんなスポーツが合うのだろう」とも思っていました。

息子が13歳になった頃のことです。友人から空手道場へのお誘いを受けました。しかも、その道場は相手に身体を当てることもある「極真空手」

の道場でした。

空手に限らず、日本の伝統的武道を教える道場では、身体を鍛える術を教えるだけでなく、「礼節に始まり礼節に終わる」と言われるように、礼儀作法も厳しく教えてくれるという心象が私にはありました。その時の私は「空手なら身体を鍛えるのと同時に人として大切なことを教えてくれるに違いない」と思ったのでした。

まずは「体験レッスン」を受けてみることにしました。道場に入ると、そこには身体が大きくて頑強そうな先生がおられました。先生は開口一番、「拳で先生の胸を思いっきりパンチしてみてください」と息子に言いました。

一般的に、ダウン症の人たちは暴力や争いごとを好まず、穏やかで優しい性格の傾向を持っていると言われています。息子も例外に漏れず、拳で人を叩くなど全く経験がありませんでしたか

## 親の心配をよそに着実に成長 私が息子から教えられたこと

息子・麗良は、月曜から金曜までの平日は一人でバスに乗り「就労支援事業所」に通っています。事業所に到着すると必ず私に「いま着いたよ」と電話をしてくれます。

毎日、大抵が同じ時刻に連絡が入りますが、時にはバスが渋滞に巻き込まれるなどで到着時間が遅れることもあります。

そんな時は、「ママが心配するから早く連絡しなきゃ」と、腕時計と睨めっこをしながら焦ることもあるといえます。

ある日のこと。道路が渋滞し、事業所への到着が大幅に遅れそうになったんだそうです。

焦った息子はバスの中から事業所の担当指導員に電話して、時刻通りには到着できない旨を伝えたといえます。

すると、担当指導員さんから、「もし遅れそうな時でもバスの中で電話しないで、降りてから電話をするようにしましょうね」と指導されたといえます。

就労支援事業所で受けるカリキュラムの中で「公共交通機関の中からの電話はマナー違反」と教えられるようです。それをきちんと守るように注意されたんだと思います。

その日を境に息子は、例えば何かあっても公共交通機関の中で電話をすることがなくなりました。社会生活を送る上でマナーを守るといえるのは重要なことです。しかし、それを誠実に守るが故に起こった出来事がありました。

息子が利用するバス路線で時刻改正と路線の変更が行われ、停留所の場所が以前と変わってしまったのでした。

それまでと違う停留所で降りざるを得ないことになった当日のことです。停留所が変わったとはいえ、土地勘のある場所ですから、私はそれほど心配していませんでした。でも、いつもの到着の連絡がなかなか無いので気になって息子に電話をしてしまいました。

「あっ、いま着いたから」とだけ言って息子は電話を切りました。しかし、声の後ろからバスの車内アナウンスが流れているのが聞こえています



水越けいこ「僕の気持ち」絶賛発売中!

ら「思いっきりパンチしてみてください」と言われても、パンチどころか緩く握った拳を優しくドアでもノックするかのようには「コッソ」と先生の胸に当てるのが精一杯でした。

その弱いパンチに驚いたのは先生の方だったと思います。でも、先生は「空手はケンカじゃない。紳士の武道なんだから、相手と戦う時は拳に思いっきり力を込めて良いんだよ」と、優しくも威厳のある口調でそう言いました。その言葉を聞いてからか、体験レッスンが終わるまでの短い時間のうちに、見違えるほど遅くなった息子の姿がそこにありました。

息子は26歳になった現在でも空手を続けています。長く続けたことで肉体的に鍛えられたのはもちろんですが、物事に集中すること、礼儀を重んじること、それらも同時に鍛えられたこと、それをととても嬉しく思います。

た。つまり、未だ到着していなかったのです。「あれ?」と思うっていると、少しして「ごめんなさい。いまバスを降りた」と息子から電話がありました。

息子はバスを降りてからまず事業所に連絡を入れ、その後私に電話をしたといえます。以前に注意されたことを頑なに守るために、公共交通機関であるバスの中で自分から電話することをしないでいたにも関わらず、私が電話をしてしまったがため、その電話に出してしまったことでした。

私は、しっかりと社会ルールを守ろうとする息子の姿勢に、「大人として認めてあげなければ」と反省し、もっと息子を信じてあげねば、とも感じさせてくれた出来事でした。





# hikari no café 蜂巢小珈琲店

指定障がい福祉サービス事業所



Retro modern space "hikari no café"



## 地域に遺された廃校の 新たな「カタチ」 障がいの弱さを 強さに変えた「ヒカリ」

栃木県大田原市に、廃校となった小学校をリノベーションして営業する「hikari no café 蜂巢小珈琲店」がある。同店は、昭和に建てられた校舎の外観や教室の雰囲気を残しつつ改築されていて、広々とした店内はレトロモダンを感じさせる明るくシックな装いで、ノスタルジックな温かみに溢れている。人気テレビ番組のロケ地として利用されて以降、その認知度は更に上がり、遠方からの来店客も多いという。ゆとりのある素敵な空間で障がい者と共に働く「hikari no café 蜂巢小珈琲店」の施設長・川上聖子さんにお話を伺った。



hikari no café 蜂巢小珈琲店  
栃木県大田原市蜂巢 295  
TEL / 0287-54-2255  
<http://www.hikarinocafe.com/hachisu/>



## 明るくゆとりのある 空間でのびのびと働く 障がい者の姿

大橋 「蜂巢小珈琲店」は「ヒカリノカフェ（※1）」としては2号店になるんですね？

川上 そうです。まず、1号店である「ヒカリノカフェ本店（※2）」が、05年にオープンしました。16席と少ない席数ながら、本格的なカフェを目指して地道に営業し、徐々に一般のお客さんも増えてきました。そこで、「もう少し大きな所でもカフェをやってみようか」という話になって、廃校になった旧・蜂巢小学校をリノベーションしてオープンさせたのが「ヒカリノカフェ蜂巢小珈琲店」になります。

大橋 廃校を利用するというのが素敵なアイデアだと思います。

川上 全国的に見ても珍しいのではないかと思います。廃校を利用して、障がい者の就労の場所としてカ

ね。でも、昔ながらの木造校舎というのは、懐かしさやゆとりとした雰囲気があると思うんです。そういう場所は障がいのある人たちにとっても良い影響を与えるのではないかと。のびのびと働いて貰えるのではないかと。と考えたんです。

大橋 障がい者スタッフさんたちの表情から、のびのびと働いているのが伺えるような気がします。

川上 それと、学校というのは「学びの場」でもありますがね。障がいのある人たちがここで働くことによって、様々な事を学んでもらう場所としても「学校」というのは最適ではないのかなと思っています。

大橋 確かにそうですね。

川上 廃校を「地域に遺された資源」として捉えて、それを最大限に活用して「強み」に変えようと思っていました。それは障がいのある人にも共通している、障がいがある事による「弱さ」を「強さ」に変えていって貰いたいという思いも込められています。

大橋 現在、何名の障がい者スタッフさんが働いているんですか？

川上 就労継続支援A型が14名、B型が15名という構成になっています。

大橋 皆さんはどんな作業をしていますか？

川上 接客、調理補助、清掃などのカフェ業務の主たるものを担当する人と、お客様に人気のケーキ、スコーン、パン、デザートなどの製造を担当

する人がいます。

大橋 先ほどランチを頂きましたが、その中に素敵なサンドイッチがありました。それも障がい者スタッフが調理しているんですか？

川上 そうですよ。パン作りが得意な障がい者スタッフがいて、上手にパンを作ってくれます。

大橋 障がい者スタッフへの指導はどのようにされていますか？

川上 本人たちがやりがいを持って働けるように、個々の障がいの程度、特性、得意・不得意などを私たちが理解し、その人に合った仕事を担当してもらおうとしています。実際の業務を覚えてもらうには、まずは職員が見本を見せながら教えます。言葉よりも、実際にやって見せる方が、より伝わりやすいですね。カフェで、職員が姿勢良く歩いたり、丁寧な言葉遣いで接客をしていると、それを真似て同じような言葉を発し、同じような行動を取れるようになるんです。

大橋 確かにそうですね。私が初めてアルバイトした時もそうでした。誰でも同じですね。



※1：「hikari no café」の名称に関して本文中ではカタカナ表記を使用しています。  
※2：「hikari no café本店」栃木県大田原市本町1-2701-23 / TEL 0287-23-2227



「ありがとう」の  
積み重ねで  
次第に芽生える  
「自己重要感」  
※3

川上 障がい者スタッフが良い行動を取った時は、「今のは良かったよ」とか、「ありがとう」などと職員や先輩らが声かけをするようにしています。声かけが積み重なっていくと、自信に繋がっていくようで、徐々に堂々とした接客が出来るようになるんです。

大橋 誰でも周囲から褒められると嬉しいですが、やる気も出ますし。

川上 障がいのある人は、「これは駄目、あれは駄目」というように、行動を否定されると、気持ちが萎縮してしまう傾向があるんです。



大橋 自信が失せてしまいますもんね。

川上 失敗しても良いんです。私たちがサポートしますから。ここではとにかく、「失敗しても良いから挑戦しよう」という気持ちを大切にしていますし、みんなにもそう言っています。

大橋 自信が持てる、仕事においても実生活においても、良い変化が生まれると思います。

川上 そうですね。開店当初はお客様に書いて頂くアンケートの回答に、「表情が暗い」とか「声が小さい」といった意見も多かったんです。ですが、徐々に大きい声で堂々とした接客が出来る障がい者スタッフも増え、アンケートでもお褒めの言葉を頂く機会が増えました。

大橋 それは嬉しいですね。

川上 人に認められる事によって、それが表情や声に現れるんです。とても良い変化ですね。

大橋 地域の人たちとの交流もあると伺いましたが、どんな事をしているんですか？

川上 この校庭を使ってグラウンドゴルフをされている地域の高齢者の人たちが20名程おられるのですが、その人たちと餅つき大会をしたんです。そうしたら、今まで障がいのある人と接して来なかったであろう高齢者の人たちが、障がい者スタッフをまるで子どもか孫のように可愛がってくれるようになったんです。

大橋 素敵なお話ですね。

川上 それからは地域の人たちが行う行事などに招いて頂ける事も増えました。レクリエーションや敬老会などに招待してもらっています。その時に、障がい者スタッフが作ったシフォンケーキをおみやげに持って行く事があったのですが、皆さんとても喜んで下さいました。そういった交流が

※3: 同店では「自分を肯定するだけでなく、自分は大切な存在(重要な存在)であることを意識してもらうための言葉」として「自己重要感」という表現を使用しているとのこと。

どを通して、地域の人たちにも応援して頂けるようになりまして。

大橋 コミュニケーションを重ねる事で、障がいのある人への理解や意識は確実に変わって行く気がします。

川上 そうですね。来店されるお客様だけでなく、地域の人たちにも声を掛けて頂けるようになったことで、障がい者スタッフも喜んでいて、ますます張り切って働いてくれています。

大橋 「カフェ」という形態で営業や運営をして来て、苦労した事などはありますか？

川上 廃校を利用したカフェという事で、興味を持って来店されるお客様が私たちの想定以上に多かったんですね。開店当初はスタッフの全員が素人同然の状態だったので、提供できるランチの数が少ない事もあったんですね。それで、お客様にお叱りの言葉を頂いたこともありました。

大橋 それは大変でしたね。



フに声を掛けつつ、自分の心に言い聞かせているという部分もありますが(笑)

大橋 今後の課題はありますか？

川上 新メニューの考案など、お客様が飽きない店づくりをしていきたいですね。それと、これまでに店内でお客様向けに「ラテアート講習会」なども開催して来ましたが、これからも色々な事を企画して、ご来店される人たちに楽しんで貰えたら良いなと思います。

大橋 飲食以外にも楽しめるカフェでありたい、ということですか？

川上 「ヒカリノカフェ」が名前の由来だという「ヒカリーズ」という常連さんのグループがあって、その人たちがいつも講習会に参加してくれるんですよ。今後の展望としては、「ヒカリノカフェ」ブランドを確立させて、障がい者スタッフがパティシエや焙煎士、バリスタ、ブランチエ(パン職人)になれるよう支援していきたいと思っています。

大橋 今回の取材で、多くの人に愛されているカフェだというのがすごく良く分かりました。

hikari no café 蜂巢小珈琲店



併設の工房で働くヒロキさん(仮名)。ここで働くようになってから体調の自己管理をするのはもちろん、朝食も自分で作って食べるようになったという。

※編注/プライバシーに配慮して被取材者名を仮名にしています

川上 「どうしたら良いのか」を日々考えて、試行錯誤しながら営業してきて、今ではランチの提供数もかなり増やせました。提供時間については、「ここはお客様にゆったり過ごして頂く場所なんだから、急がなくていい」とか、「せっかくの広々としたカフェなのだから落ち着いて丁寧にやろう」と全スタッフに言っています。無理して急ぐと失敗する事もあるでしょうし、私たち職員が焦ると、それが障がい者スタッフにも伝染してしまう気がするんです。

大橋 感受性が高い人が多いですから。

川上 混雑時に、「落ち着いてね」と障がい者スタッフ



タレント・モデル・ライター  
大橋 はるか  
Haruka Ohashi  
様々な雑誌や書籍でライターとして活動。アミューズメント機器メーカーの公式コスプレヤーも務め、様々な媒体で活躍。最近では、キャンドルアーティストにも挑戦するなど、多岐に渡って才能を発揮する。

社会福祉法人 エルム福祉会  
hikari no café 蜂巢小珈琲店  
施設長  
川上 聖子さん  
Shoko Kawakami



先に話を聞いたのはホールスタッフのマユミさん(※2)。彼女は同店のオープンの頃から働いているそうです。

まず私はマユミさんに「オープン当初と今とで変わったところ」を聞いてみました。それは「従業員が増え、個々のレベルも上がり、より多くの方にサービスを提供できるようになったこと」だと淀みなく答えてくれました。

マユミさんによると、「ハンバーグ」がお勧めのメニューだとか。一生懸命さが伝わる誠実な話し方で、食材や調味料など「ハンバーグの美味しさの秘訣」も私に教えてくれました。

マユミさんと話していて感じたのは「質問に対しての回答がとても上手な人」であることでした。私が何か質問を投げかけると、それに対して的確に、しかも私が聞きたいと思った部分を明確に、ほ



### 会話は「好きだけれど苦手」 受け答えがとても上手な理由

人の少しの時間で答えを返してくれていたからでした。

ホールスタッフとして接客業務に日々携わっている中で、小気味が良いと感じるくらい的確で明確な受け答えができていたのは、とても「自然なこと」なんだろうと思っていました。しかし彼女は、「人と話すのは好きだけれど上手く話すのは苦手」だと言いました。この「好きだけれど苦手」という答えは意外でした。

同店の施設長を務める川上さんによると、「仕事を始めた頃の彼女はジェスチャーを交えながら必死にお客さんと対話していた」といいます。でも、そのエピソードを聞いても、まだ「苦手」だとは信じられませんでした。むしろ、頭の回転が速くて、元から「話し上手」な女性なのでは? とさえ思っていました。

しかし、「仕事中に心がけていることは?」という私の質問に対して、「接客中は意識して正しい敬語を使うよう心がけている」、「使い方を間違えた敬語があったら家に帰ってから何度も練習する」と彼女が返しました。その答えによって、ここまで私が抱いていた疑念にも似た違和感は、大きく崩れることになりました。

これで、マユミさんによる「上手く話すのは苦手」という自己評価と、ハンバーグの美味しさの秘訣を能弁に語ることにの乖離の理由に説明が付きました。つまり彼女は、接客という業務に対しての「プロ意識がとても高い人」とあると言えます。その意



「どんな事も「慣れれば平気」  
快活で明るいのは努力の結果」

次に話をしたのがカツキさん(※1)です。彼女はここで働き出して約1年半。最初は厨房の仕事を経験し、現在はホールスタッフも兼任するなど、同店では全般的な仕事を担っているそうです。

カツキさんは以前、とある料亭に住み込みで働いていたといいます。そう言われると確かに、対談中は笑顔ではつきりと相槌を打つなど、彼女の話し方には「鍛えられた何か」があるような気がしていました。

カツキさんは話し相手を楽しませようとするサービス精神が旺盛なように思えました。彼女も自身のことを「話し好き」だと言い、普段の仕事中に「お客さんと交わす会話が楽しみ」でもあるといいます。

識のせいで、例えば苦手なことであっても接客のプロとしてはきちんと業務が遂行出来ているのだと分かりました。



本ページ「つむぐ」の前に掲載の「hikari no café 蜂巢小珈琲店」の取材に私も同行しました。廃校となった小学校をリノベーションして作られた店内は木を基調とした、お洒落で、どこか懐かしく、とても優しい感じの雰囲気を持つ素敵な空間でした。

取材・文  
渡邊 希望  
俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ここ1年で3本の脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。



渡邊 希望



カツキさん



マユミさん



「ヒカリノカフェ 蜂巢小珈琲店(※1)」に足を踏み入れると、どの席も会食を楽しむお客さんたちで程よく埋まっていました。広々とした店内を見渡すと、木造校舎の構造物を活かした柱や梁、改築後に逃えられたであろう調度類や什器。古いものと新しいものとの双方が、まるで昔からそこにあったかのように見事に調和していました。その空間には柔らかさと優しさが満ちているような気がしました。

対談の予定まで少し時間があつたので、お客さんに好評だというランチを頂きました。テーブルに届けられたランチは、給食で使われていたような容器に盛られ、先割れスプーンが添えられているという演出が施されていました。

容器こそ「給食風」ではありませんでしたが、そこに盛られている料理のどれもが、給食を遙かに凌駕して洗練されたものばかり。他の取材スタッフフラット、お互いの給食についての思い出などを語りながら美味しくいただきました。

ふと、客席から外に目をやると、窓の外には広い校庭があり、そこに植えられてからずっと蜂巢小学校と児童を見守って来たかのような大きな樹木たち。その向こうには豊かに実った稲穂の波と、さらにその先には緑を湛えた栃木の山々が連なっていました。

この「ヒカリノカフェ 蜂巢小珈琲店」で働く「マユミさん(※2)」と「カツキさん(※1)」のお二人にお話を伺って来ました。

※1：編注/店名の表記に関して本文中ではカタカナ表記を使用していますが「hikari no café 蜂巢小珈琲店」が正式な表記となります

※2：編注/プライバシーに配慮して被取材者名を仮名にしています





今回の取材で話をしたお二人とも、「hikari no café蜂巢小珈琲店」での仕事の話に関しては終始とても楽しそうに答えてくれました。どちらも、いつでも前向きに努力していることが分かりました。「なぜ、ひたむきに努力を続けることができるのか?」といえ、それは自身の職場である「hikari no café蜂巢小珈琲店」が大好きだからに他ならないのだろうと気付きました。好きなものには真剣になれる。それを再認識できた対談でもありました。そこで今回の物語の題材を「好きなものは頑張れる」としました。

### 好きなモノ

その日の放課後。私は先生に頼まれて資料室の整理をしていた。教科ごとに資料をまとめ、それぞれ五十音順に並べる。係の仕事とはいえ、憂鬱な作業だった。初めて5分。それはそれは長く感じた。まだ1教科分の整理も終わっていない。窓の外を眺めると、野球部やら陸上部やら。皆、夕日に照らされて顔が真っ赤だ。私も早く終わらせ、自分の好きな事に時間を使いたい。私は窓の外から手元の資料に目を戻し、溜息を一つ吐く。と、急に扉が開いた。見れば、クラスメイトがモジモジしながら立っている。いつも一人で本を読んでいる奴だ。それは人気小説の時もあったし、どこで手に入れたのか分からない古くて分厚い本の時もあった。扉を開けた後、彼はしばらく黙ってもしもじとして、急に体を膨らませて深く息を吸い込んで、「手伝ってもいい?」

と、吸った息と比べると実にか細い声で私に話しかけた。何? と聞き返したくなるほど小さい声だったが、なんとか聞き取れていたので、私は彼の提案を快諾した。手順の説明を済ませ、2人で資料整理に取り掛かった。作業が始まると、彼は恐ろしく手際が良かった。20〜30冊に1冊くらいのペースで「おっ」とか「あっ」とか資料に対して興奮する。よっぽど紙が好きなのか、または文字が好きなのか、その仕草がおかしくて、私は自分の作業も程々に、彼を眺めて楽しんでた。彼は気になる資料を見つけるとペラペラと中身を見ながらウンウンと頷いて、また作業に戻る。時折、彼と目が合い、お互いにバツと目を逸らす。流石に私も見過ぎていたかもしれない。気が付けば、彼が来てから40分経っていた。資料整理も8割ほど終わらせた。と言っても、彼が作業の大半をこなしていたのだが。未だにベースを変えずに資料を整理する彼からは、疲れは感じられない。私といえば、既に手を止めて、ただ彼と窓の外を交互に見ていた。外では部活の練習も佳境のようだった。彼は急げる私を咎めるでもなく、相変わらず少し汗ばむほどの勢いで、資料の中身を確認しながら整理を進めている。「何?」と彼が声を掛けてきた。そのとき私は彼をじっと見てしまっていた。「本、好きなんだね」

誤魔化しと本音が半々な言葉を投げた。彼は特に返事をするでもなく、作業に戻った。作業はあと5分も掛からなそうだった。最後に「いいよ、やっておくから」と制されてしまった。これには私は少しムツとした。資料整理が終わった。彼は小さくさま帰ろうとしたので、下駄箱の所で少し待つように言った。資料室の鍵を閉め、職員室で報告を済ませ、荷物を取りに教室に寄り、小走りで下駄箱の所まで向かった。彼はいた。「飲み物をおこるよ」

缶1本を飲み干すまでの間、私たちは一緒に何かを成し遂げているような一体感を感じた。彼からは資料整理をしていた時の情熱的な雰囲気を見せており、今はまたモジモジしている。「ありがとね助かった」

彼は相変わらずさっけない反応を返す。奢った飲み物をすこい勢いで飲んでる。もう少し会話をしようとは出来ないものか。しかし、小一時間も一緒にいた今の私なら、こいつに悪気はないことくらいは分かる。「本、好きなんだね」

さっきより興味を持って私は彼に質問した。彼は軽く頷き、飲み物を一気に飲み干した。待たせても悪いと思いつ、私も飲み物をあおって、缶を「ミ箱」へ投げ入れ、荷物を持った。すると彼は少し焦ったように私に声をかけた。「あの」

彼から話し掛けられたのは何十分ぶりだろうか。何? と聞き返した。「困った時は手伝うから」

キョトンとする私を尻目に、彼はものすこいスピードの早歩きで帰っていった。彼の顔は、真っ赤だ!

カツキさんが「話し好き」で、誰かと「話すことが楽しい」のだからというのは、実際に彼女と話をしてみれば誰でも分かるのではないかと思えるほどです。

そんなカツキさんですが、自身の性格を「穏やかな性格じゃない」のだと言いました。他人と「コミュニケーション」を取るのが「好き」で、「楽しい」はずなのに、「なぜ「穏やか」でないのだろうか?」と、とても意外に思えました。

その理由を問うと、「私の障がいがある理由で」と彼は答えました。

もう少し詳しく「障がい」のことについてカツキさんに教えてもらうことにしました。ためらいながら

質問する私に対して、「細かい作業が得意じゃないし、ボーっとすることが人より多いんです」と、実にあつげらんとその特徴を答えてくれたのでした。

そのうえ、まるで数でも数えるかのように指を「タンタンタン!」と順番に折りながら、「やりっぱなし! 点けっぱなし! 出しっぱなし!」と畳みかけるように付け加えました。リズム良く明るく答える彼女のその仕草に、失礼ながら私は思わず笑ってしまいました。

「でも、結構大変なんです」というカツキさん。それを聞いて、私が申し訳なさそうにしているのを見て、「まあ、慣れれば平気なんですけどね」と言葉を選びました。

趣味は「絵を描くこと」だというカツキさんですが、それに対して私が「細かい作業は苦手なんじゃないの?」と返すと、「慣れているから平気」と答えました。

カツキさんが何度も口にした「慣れれば平気」。これはごく普通の言葉のように聞こえます。人は「慣れれば」大抵のことは何でもできる、そう思っているはず。しかし、その意味を改めて良く考えてみると、「慣れる」ようになるまでには、努力、忍耐、時間、経験など多くの要素が必要とされるはず。この考えに至って、はたと気付きました。カツキさんが私の前で見せた明るくて快活な振る舞い、それは彼女がこれまで多くの労力と時間を費やして体得したもので、決して簡単に得られたものではないことを。



Kazuki



Mayumi



# 障がい者と家族の法律問題①

## 「遺言」の意義と作り方



表参道パートナーズ法律事務所  
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

### 遺言が有する効力とは？ 遺言が必要となる場合

近年「終活」という言葉を耳にすることが多くなりました。その内容は、死後に備えて遺言を作っておくということが多いようです。遺言という言葉自体は聞いたことがある人や、関心のある人が多いのではないかと思います。

それでは、遺言とは何のために作るのでしょうか。また、どのように作ればよいのでしょうか。今回は、遺言について基本の「キ」をお伝えしたいと思います。

遺言とは、それを作った人(遺言者が亡くなった場合に、その人の財産をどのように処理するかなど)について、遺言者の意思を記載するものです。

その意義を理解するためには、そもそも遺言がない場合にはどのような処理がなされるのかを知っておくことが有用です。

ある人が亡くなった場合、その人の財産は、相続人がいれば相続人に相続されます。

相続人が複数人いる場合には、法律で決められた割合に従って財産が受け継がれることとなります。

例えば、亡くなった人に奥様と子ども2人がいた場合でみてみましょう。この場合、法律では、奥様が2分の1を、子どもが残りの2分の1を等分(つまり4分の1ずつ)受け継ぐことになっていきます。このように法律で決められた割合を「法定相続分」といいます。

しかし、「口」に同じ家族といっても、亡くなった人の生前の関わり合いはそれぞれ異なると思います。例えば、親の介護の面倒を看た子と、全

く看なかつた子がいる場合、それでも法定相続分に従って全ての財産を等分に分けると、不平等に感じることもあるでしょう。

そのような場合には、遺言で何を誰にどれくらい分けるということを決めておくことができます。一人の相続人に全ての財産を与えるという遺言も有効です。

このように遺言を作ること、相続人が財産の分け方をめぐってトラブルになることを抑制することが期待できます。



### 遺言はどのようにやって作るのか？ 遺言の作り方あれこれ

それでは、遺言を作ろうと思った場合、どうやって作ればよいのでしょうか。まずは、一番シンプルな作り方を説明したいと思います。遺言を作るために必要な要素は、以下の4つです。

- 1 全文を自署する(口)
- 2 日付の記載
- 3 署名
- 4 押印



どのような紙に書いてもよいですし、基本的にどのような内容を書いても大丈夫です。財産の分け方だけでなく、子どもたちへの思いなど自由に書いて良いのです。これは「自筆証書遺言」と呼ばれるものです。これだけ覚えておく、遺言を作るハードルがぐっと下がるのではないのでしょうか。

それでは、例えば視覚に障がいのある人など、前記の作り方では遺言が作れない人はどうすればよいのでしょうか。

そのような場合は、「公正証書遺言」の出番です。公正証書遺言とは、証人2人以上の立会い

のもと、遺言者が遺言の趣旨(内容を公証人に言葉で伝え、「口授」といいます)、公証人がその内容を筆記し、遺言者と証人に読み聞かせるか閲覧させて、最後に遺言者と証人と公証人が署名押印して作成するものです。

公証人が関与するため、自筆証書遺言に比べて作成方法の不備等により遺言が無効となるリスクが小さいというメリットがあります。この公正証書遺言を利用すれば、前記のような理由で自筆証書遺言が作れないという問題を解決することができます。

#### 1 目が見えない人の場合

目が見えない人でも、話したり聞いたりすることが出来る人は、口授により自身の意思を公証人に伝え、公証人に遺言を作成してもらうことができます。署名押印ができない場合でも、公証人がその事由を記載して目が見えない人に代わって署名・押印することができます。

#### 口 話すことができない人の場合

口授により自身の意思を公証人に伝えられない場合でも、通訳人を通したり、筆談により自身の意思を公証人に伝え、公証人に遺言を作成してもらうことができます。通訳人に心当たりがない方は、公証人に依頼して手話通訳者を探すこと

もできます。もちろん、自分で書ける場合は自筆証書遺言も可能です。

公正証書遺言を作るときは公証役場に向くことが原則ですが、遺言者が入院中等の理由で公証役場に向くことができない場合は、公証人が病院等に出張してくれます。

自筆証書遺言と公正証書遺言に共通する条件として、遺言者が15歳以上であること、遺言の内容や作成した遺言に基づく法的な効果を弁識する能力(遺言能力)が必要とされています。成年被後見人の場合は、事理を弁識する能力を一時的に回復した時に、医師2名以上の立会いのもとに遺言することができます。

このように、遺言を作成することはとても簡単にあります。身体が不自由でも作成する方法はあります。

一方で、遺言を作成することにより、相続人のトラブルを回避したり、自身の意思を後世に伝えたりと、メリットは大きいです。

遺言が必要と思う方は、ぜひ作成してみるか、近くの弁護士等に相談してみてください。

表参道パートナーズ法律事務所  
東京都港区南青山6-2-9 南青山NYKビル9F  
TEL: 03-16804-1371



<http://omt-partners.jp/>



## 各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

### 布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

#### ■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

#### ■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



### 募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ことや告知などをP27の情報ページに無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

### 一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

#### お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F  
一般財団法人メルディア 事務局/担当:後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか)宛て  
TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



#### ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。



## 障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報、各種の告知、一般財団法人メルディアからのお知らせなどを掲載しています。

### hikari no café 蜂巢小珈琲店



#### ■場所

栃木県大田原市蜂巢295  
TEL: 0287-54-2255

#### ■営業時間

AM11:00 ~ PM5:00 (L.O./PM4:30)  
ランチタイム AM11:00~PM2:00

※毎月、第三水曜日が、全体研修のため  
13:30オーダーストップ 14:00閉店 となります

#### ■定休日

日曜・月曜

#### ■店舗紹介

廃校となった小学校をリノベーションした素敵なカフェ。  
新鮮野菜たっぷりのランチがおすすめです。

■URL / <http://www.hikarinocafe.com/hachisu/>



Cafe

### コンフィデンス早稲田 / 「早稲田'S 愛せんべい」販売



#### ■場所

東京都新宿区西早稲田2-18-22  
TEL: 03-6233-9714

#### ■営業時間

AM10:00 ~ PM3:45 (月曜~土曜)

#### ■定休日

日曜・指定日

■URL / <https://confidence-s.com/>

#### ■店舗紹介

早稲田通り沿いにある赤と白の建物が目印です。1階の店舗では「早稲田'S 愛せんべい」の販売を行っています。煎餅の販売だけでなく、イベントなどの贈り物の注文対応や外部の催しでの販売も承っています。



Shop

### お便り募集!

あなたが知りたいことを  
あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思います。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。







Design Your Life

MELDIA  
GROUP

同じ家は、つくらない。

# 15 | MELDIA CONTENTS 2019 MAR.

## 01 | 障がい者を応援

クオールアシスト株式会社 / 東京都中央区

## 06 | 一般財団法人メルディアとは？

メルディアの基本理念、財団概要、支援事業

## 07 | 布施博が訊く

コンフィデンス早稲田 / 東京都新宿区

## 11 | 障がい者とアート

マ・メゾン光星 / 栃木県那須町

## 15 | 水越けいこ連載「M size / はじまり」

水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る

## 17 | 福祉事業所訪問

hikari no café 蜂巢小珈琲店 / 栃木県大田原市

## 21 | つむぐ～こえをきく～

脚本家・渡邊希望が障がい者の「声」を聞く

## 25 | 弁護士が教える「障がい者と法律」

表参道パートナーズ法律事務所 / 弁護士・安部晃平

## 27 | イベント情報と店舗情報・その他

障がい者が働く施設や団体の情報・店舗情報など

## 28 | 募集と告知

取材先募集と協賛の募集など

月刊 MELDIA Vol.15 / 2019年1月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局

発行人 / 小池信三

事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章

編集 / 株式会社 サン・オフィス

編集人 / 東宮恵美

編集長 / 山口慎市

進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝亘介(新村印刷)

編集部 / 東宮恵美、都筑亮太、村田保則、渡邊希望

ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、安部晃平、山口慎市、渡邊希望、横関寿寛、大橋はるか

カメラマン / 吉岡晋(PMJ)

ヘアメイク / 鳥取まりこ

デザイン / 有限会社 フレッシュャー・アド

印刷製本 / QREAS株式会社

協力 / MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計、クオールアシスト株式会社、青木英、コンフィデンス早稲田、佐藤恵子、一般社団法人 障害者就労支援協会 Confidence、社会福祉法人 慈生会 マ・メゾン光星、斎藤透、佐藤謙太郎、北原秀章、社会福祉法人 エルム福祉会、hikari no café 蜂巢小珈琲店、川上聖子、表参道パートナーズ法律事務所、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、株式会社PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2019©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア / 月刊MELDIA  
MELDIA GROUP 株式会社 三栄建築設計 / 株式会社 サン・オフィス



次号予告

# MELDIA VOL.16

2019年2月25日 発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632

東京都新宿区西新宿 1-25-1

新宿センタービル 32F

一般財団法人メルディア 事務局

TEL: 03-5381-3213

MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人  
メルディア  
Meldia Foundation

# メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計

〒163-0632

東京都新宿区西新宿1-25-1

新宿センタービル32F



まだ25年、  
これからのメルディア